

授業科目名	社会Ⅱ	教員名	藤本 将人	免許・資格との関係	小学校教諭	選択必修
					幼稚園教諭	
授業形態	講義	担当形態	単独		保育士	
					こども音楽療育士	
科目番号	KY0110	配当年次	2年前期	卒業要件	小幼コース	選択必修
単位数	2単位				幼保コース	選択
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・社会					
一般目標	小学校学習指導要領社会編で取り上げられている各学年の内容（我が国の歴史や政治と国際理解の学習等）に関わる基礎的事項の理解とその調査・探究方法を学ぶとともに、学習内容を小学校社会科の目的・目標と関連付けて考えることができる。					
到達目標	(1)-1) 小学校社会科における各学年の内容の構造（我が国の歴史・政治・国際理解の学習等）を理解することができる。 2) 地域の調査方法を理解することができる。 (2)-1) 調査した結果を小学校社会科の目的・目標と関連付けて教材化できる。 2) 考察の結果をプレゼンすることができる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	小学校社会科の内容を踏まえて、地域社会に尽くした先人の働き等、地域社会学習の基本を学習する。「社会Ⅱ」では、縄文時代から現代までのわが国の歴史について学習する。さらに政治及び国際理解について、基本的な概念・事項を学習する。 アクティブラーニングとして、振り返り、レポートなどを取り入れる。					
授業計画	<p>第1回：小学校社会科の内容の確認（目標(1)-1)） 社会科の内容を確認する。社会科の内容は、児童の発達段階や地域の実態の外に、社会諸科学の内容や方法を背景として構成されていることを理解する。</p> <p>第2回：古代の歴史の流れと歴史教育の基礎（目標(1)-1), 2)） 小学校学習指導要領社会に例示される42名の人物と代表的な文化遺産、世界遺産、重要文化財をとおして、それぞれの社会・時代を考える。</p> <p>第3回：中世の歴史の流れと歴史教育の基礎（目標(1)-1), 2)） 源頼朝と武士の世の中、蒙古襲来、書院造等について学ぶ。</p> <p>第4回：近世の歴史の流れと歴史教育の基礎（目標(1)-1), 2)） 戦国期から江戸時代、キリスト教、鉄砲、徳川家光、鎖国、参勤交代を学ぶ。さらに近世の文化、伊能忠敬と日本地図、歌舞伎、蘭学・国学、浮世絵を学ぶ。</p> <p>第5回：近現代の歴史の流れと歴史教育の基礎（目標(1)-1), 2)） 近代国家の形成、明治維新、廃藩置県、大日本帝国憲法、四民平等の意味を考える。さらに世界に歩み出した日本と敗戦、科学の発展、日清日露戦争、条約改正、日華事変、第二次世界大戦、新しい日本、平和な日本へ、日本国憲法の制定、東京オリンピックを学ぶ。</p> <p>第6回：現代社会と私たちの生活（目標(1)-1), 2)） 政治・法律・憲法の仕組み、個人と社会生活、国民生活と福祉、政治的な見方や考え方の育成について学ぶ。</p> <p>第7回：我が国の政治の働き（目標(1)-1), 2)） 日本国憲法の基本原理（国民主権、基本的人権、平和主義）、三権分立、地方公共団体や国の政治と国民生活、裁判員制度、租税の役割を学ぶ。</p> <p>第8回：世界平和と人類の福祉の増大（目標(1)-1), 2)） 国際連合の働き、我が国の役割、国際平和協力法と国連平和維持活動（PKO）、ユネスコ、ユ</p>					

	<p>ニセフの活動、国際交流や国際協力、異文化理解を学ぶ。</p> <p>第9回：経済生活の仕組み（目標(1)-1, 2)） 日本経済の動態分析、我が国とつながりが深い国の人々の生活、貿易について学ぶ。また経済学・社会学の方法を学ぶ。経済的な見方や考え方の育成についても学ぶ。</p> <p>第10回：グローバル経済と日本（目標(1)-1, 2)） IMF（国際通貨基金）の役割、WTO（世界貿易機関）と経済連携、FTA、EPA、環太平洋地域の政治と経済、世界標準化競争などについて学ぶ。また経済学、政治学の方法を学ぶ。</p> <p>第11回：地域調査（目標(2)-1, 2)） 身近な地域を取り上げ、地域の歴史・政治等を調査する。</p> <p>第12回：地域調査（目標(2)-1, 2)） 身近な地域を取り上げ、地域における国際化等を調査する。</p> <p>第14回：地域調査（目標(2)-1, 2)） 第11～12回の調査を振り返り、地域社会学習の基本を踏まえて調査結果を教材化する。</p> <p>第15回：プレゼンテーション（目標(2)-1, 2)） 考察の結果と教材化した資料をプレゼンする。</p> <p>定期試験</p>
学生に対する評価	<p>定期試験60%、課題レポート40%で評価する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時間外の学習について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の内容について、事前に講義資料や印刷物をわたすので、しっかりと目を通し、不明な点等をあらかじめ調べておくこと。 ・毎回の授業後に、講義内容について自分の言葉でまとめ、他者に説明できるようにする。
テキスト	<p>『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（文部科学省）</p> <p>『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』（文部科学省）</p> <p>作成したプリント資料を適宜配布する。</p>
参考書・参考資料等	<p>各社小学校社会科教科書</p> <p>週刊朝日百科『新訂増補日本の歴史』（朝日新聞社）</p> <p>正井泰夫 監修『今が分かる時代が分かる世界地図』 など適宜紹介</p>
担当者からのメッセージ	特になし
オフィスアワー	授業の前後の時間（メール等でアポイントを取ること。）